

第3章 将来人口の見通し

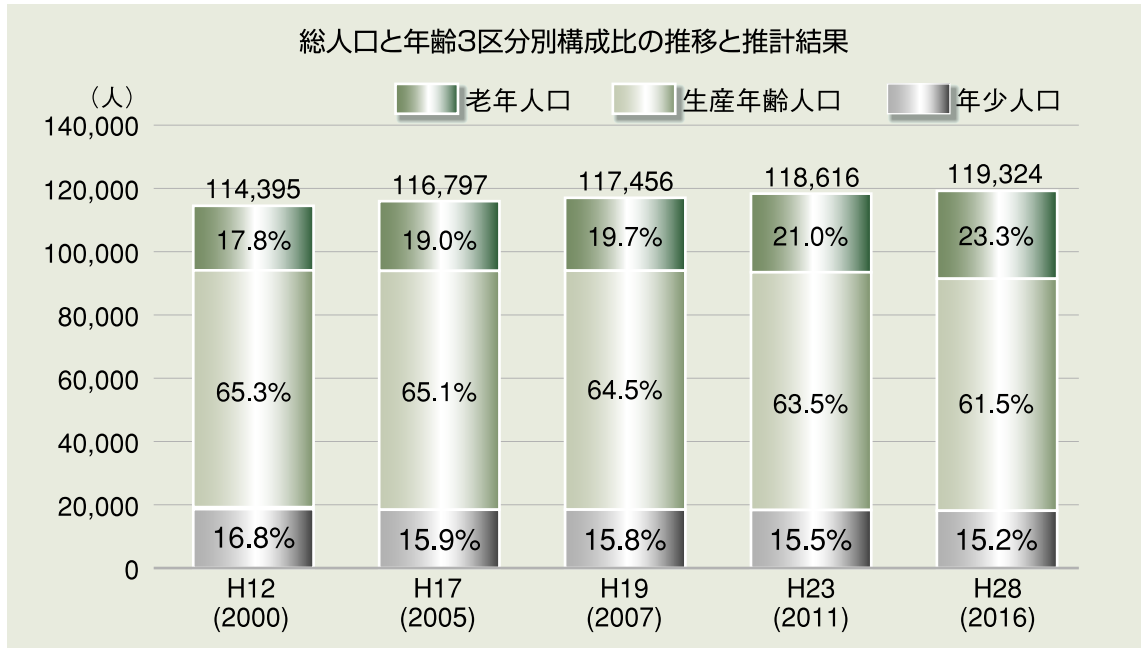
本市の人口（合併以前は旧市町人口合計）は、近年ゆるやかな増加傾向を示す中、少子高齢化が進行しています。しかし、その傾向は市内の各地域によって異なり、人口の減少や少子高齢化の進行が顕著な地域もあります。平成17（2005）年10月1日現在の総人口（国勢調査）は、116,797人となっています。

人口推計結果では、本構想の目標年次である平成28（2016）年度には、本市の総人口は現在より微増の119,324人になると推計されます。一方、年少人口（14歳以下の人口）、老年人口（65歳以上の人口）の動向を比べると、今後も少子高齢化がさらに進むものとみられます。

こうした中、本基本構想および基本計画に掲げる施策を推進することで、産業の振興や生活の利便性、子育て環境の向上を図り、人口の定住化を促進するとともに、新たな転入を見込み、目標年次の人口を120,000人と設定します。

平成28（2016）年度の人口

120,000人



資料：平成12、17年＝国勢調査人口（年齢不詳の割合は非表示）
 平成19～28年＝平成12年、平成17年の国勢調査人口を基にした推計値
 コーホート要因法・・・コーホートとは年齢区分ごとの人口集団（本推計では年齢5歳階級別の人口）のことを指す。コーホート要因法とは、その集団ごとの時間変化（出生、死亡、社会移動）をもとに人口の変化をとらえる方法で、今日国際的にも広く用いられている推計方法。